

大空 (生徒・保護者向け) 19号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和2年9月14日(月)

耕す—Art(文化)の重要性—

□本日の概要

- 「Art」(文化)はその重要性を論理的に説明することが難しいため、不要不急のものとみなされ衰退する危険性がある。そのことを自覚し、「Art」を意識的に保護しなければならない。
- 「Art」(文化)は3つの点で農業と似ている。
 - ①豊かな土壌が必要
 - ②育成に手間と時間がかかる
 - ③不断の手入れが必要
- 高文祭の機会に、新しい文化に触れ自分を豊かにして欲しい。そして、文化を保護し育てることに自覚的になって欲しい。

□Art(文化)は保護しないと減じる

朝陽祭の余韻も残る中、高文祭の壮行式を迎えることになりました。時はいよいよ芸術の秋を迎えます。文化部に所属していなくても、この機会に、皆さん一人一人が、芸術や文化の意義を再確認してほしいと思います。

特に、本校は、SSH指定校としてSTEAM教育に取り組んでいます。その中でも重視しているのが「Art」だということは、以前、皆さんにもお話したと思います。

なぜ、「Art」を重視するのでしょうか。それは「Art」が大切だからですが、それだけでなく、「Art」は意識的に保護しないと衰退してしまう危険があるからです。

「Art」の重要性を私たちは直感的に理解

していますが、そのことを論理的に説明することは簡単ではありません。例えば、STEAM教育に含まれる科学や数学などは、なぜ、そのような結果になったのかということを、論理的に説明することができます。だからこそ普遍性があり、説得力があるのです。それに対し、「Art」は、論理的な説明や、数字で客観的に示すことを苦手とします。また、「Art」は私たちの生活を豊かにするものですが、例えば、「美しい音楽を鑑賞したら病気が治る」というような直接的な効果を証明することは困難です。心の豊かさは体重計や体温計で測定することはできません。

しかし、「Art」に効果や成果がないのではありません。Artの成果は判然としにくく、論理的客観的に説明しにくいのです。論理的客観的に説明しにくいことは「Art」の特徴であり、欠点ではありませんが、科学と比較したときには「Art」の弱点と捉えられがちです。したがって、科学と「Art」が同じ土俵で勝負をすると、「Art」の方が不利になる傾向があります。特に社会が危機的状態に陥っていると、「Art」は不要不急のものと見なされる危険があります。したがって、「Artは意識して保護しないと、衰退する危険性がある」ということを皆さんは知っていて欲しいと思います。

□Art(文化)と農業の共通点

また、「Art」つまり文化を保護する必要があるのは、一度衰退すると復興するのは極めて

困難だからです。

文化は英語で「culture」です。農業は英語で「agriculture」です。似ていると思いませんか。「agri」はラテン語で「畑」を意味します。「culture」から派生した動詞に「cultivate」という動詞がありますが、これは「耕す」と意味で、「agriculture」は「畑を耕すこと」という意味になります。このように、語源からも、文化と農業には似た面があります。

「農業」と「文化」の共通点は3つあります。一つ目は、育てるための土壌が必要であること、二つ目は、時間と手間がかかること、三つ目は、不断の手入れを怠ることができないことです。良い作物を育てるためには、良い土地が必要ですが、同じように、ある文化が生まれるためには、人間の良い精神や伝統などが蓄積された畑が必要です。「人間の精神という畑」は可視化できませんが、その畑を、言葉などで耕し、丹念に育てていったものが文化です。一度荒れ地になった畑が簡単に元に戻らないように、文化も手入れを怠り、荒れ地になってしまうと、もう元には戻りません。文化を意識的に保護していかねばならないのは、一度衰退してしまうと、復活させることは極めて難しいからなのです。

□高文祭の意義

高文祭は、参加する皆さんにとっては、新しい文化との出会いです。作物が長年の品種交配によって、時間をかけて実りを豊かにしていったように、新たな文化との出会いによって、皆さんの文化は、より豊かになります。高文祭に参加する皆さんは、様々なものを吸収し、より豊かな文化を身につけて欲しいと思います。そして、皆さんが身につけた文化を本校に持ち帰り、宮崎西高校という土壌を、より豊かなものに変え、新しい文化の種をまいて欲しいと思います。

また、高文祭は、文化の価値を考え直す機会です。私たちは、文化があるのが当たり前で、

水や空気のように、その大切さを忘れがちです。高文祭に参加するしないに関係なく、この機会に、皆さんを支えている文化の大切さを自覚し、それを積極的に守り育てる人になって欲しいと思います。皆さんには、好きな曲や絵画、あるいはお気に入りの服のような、何か大切な「Art」があるはずです。そんな身近な「Art」も、努力して守らないと、私たちは失ってしまうかもしれません。かけがえのないものを失ってから嘆いても遅いのです。宮崎西高校・附属中学校の皆さんが、「Art」を大切に守り育てる人であることを願っています。

※参考 山口周、世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか？（2017 光文社新書）